

千川純一先生を悼む

東京農工大学名誉教授
佐藤勝昭

千川さんと出会ったのは、私がNHK入局2年目の1968年秋に、大阪放送局技術現業部から放送科学基礎研究所（NHK基礎研）物性研究室に転勤したときからです。当時の基礎研は、びっくりするほどサイエンティフィックな研究をしていました。私は磁性の研究室に配属され、多元系磁性半導体の結晶成長と磁気光学的評価を研究テーマにしたのですが、千川さんは、私が京大の後輩ということもあって、いろいろ目をかけてくださいました。当時千川さんは、X線テレビでシリコンの結晶成長時における転位のその場観察をしておられましたが、私は磁性体の結晶成長とX線回折評価について、なにかと相談に乗っていただきました。実験室に伺うと、部下の藤本勳さんとともに重いロータリーターゲットの交換をされる姿などをお見かけしました。

1978年、私は磁性半導体の研究で京大から博士の学位を頂いたのですが、翌1979年、千川さんから突然「佐藤さんを応用物理学会結晶工学分科会の幹事に推薦しておいたから」と言われ、「えっ、私は結晶の専門家ではないんですがいいのですか」と聞き返しましたが、「あんたは学生時代に誘電体、今は磁性体の結晶を作ってるんだから立派な結晶屋や」と説得され、分科会幹事に就任しました。今思えば、私が磁性半導体という狭い範囲に閉じこもらず、視野を広げるようにとの千川さんなりのご配慮だったと思います。

1984年の春、NHK基礎研は20年の歴史を閉じました。その前年の暮れ、当時、技研次長だった千川さんは私を次長室に呼び、「NHKは基礎研究をするために人を集めたのに、放送に役に立たんからと基礎研を廃止するのは納得できない。出せる人は出させてあげようと思っている。佐藤さんはどうしますか」と聞かれました。私は二つ返事で「大学に応募します」と答えました。すると「農工大が教員募集していたから」と紹介状を書いてくださいました。私は、基礎研の終了とともに、農工大に移ることができました。

千川さんは、1985年、高良和武先生、佐々木泰三先生に続く第3代目のKEKのフォトンファクトリー（PF）施設長になられました。PFニュースの巻頭言の原稿を毎回、寄稿前にメールで送って、私のコメントを求めて来られました。施設のスタッフとユーザーの間に立ってお気遣いされる様子を垣間見る思いでした。その後、Spring-8の建設に奔走され、1996年には兵庫県立先端科学技術支援センター所長に就任されました。退任後も、放射光を用いた医療・ライフサイエンスの研究をされ、最近も、結晶工学分科会の会誌Crystal Letters No.78(2021.9)に”Origin of Alzheimer’s disease observed in hair element levels by X-ray fluorescence”という20ページの英語論文を寄稿されるなど、最後までX線研究に人生を捧げられました。

長年にわたるご厚誼に感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈りします。



NHK 基礎研究所OB会で挨拶される千川さん(2013年)